

# 創作力を育む支援活動

— 絵画と造形を例に —

岩 田 萌\*

## 要 旨

造形活動をおこなう子どもたちが「食べる」をテーマにしたお絵描き・有機的な建物をつくる工作・自由課題の絵画と、いきものや、のりものの写真を使ったコラージュ・粘土でつくるネームプレートの4つの課題を通して創作力・想像力を育むための技術的なアドバイスをおこなった。それにより子どもたちがこれまでの経験を活かしながら今自分が実現したいアイデアの制作に影響があり、自分で考えつつもより柔軟にアドバイスを受け入れ想像を実現させるような心境の変化につながったかを具体的に検証し、より良い創作への支援を提言する。

キーワード：絵画、造形、表現、子ども、創作活動

## はじめに

子どもを対象にした造形教室で講師として6歳から12歳までを対象としたクラスを担当し、面と立体にかかわる創作活動の教授を担当している。

この教室の特徴としては毎週異なる課題を平面と立体にカテゴリ化して課題に取り組み完成させるまでを支援（指導・助言）し、授業の終わりに自分自身の作品を自分の言葉で発表し、生徒間でお互いがどのようなアイデアをもとにどんなふう制作に取り組んだかを共有する時間を設けている。

講師は子どもたちにどのようにアドバイスしてより感性が表現されたものをつくれるかに取り組み、子どもたち個々の才能に合わせたタイミングやアドバイスのあり方を追求している。

今回は写真や講師の作成した絵を参考に、

1. 平面の課題：「食べる」をテーマにしたお

## 絵描き

2. 立体の課題：曲がった建物（空間のデザイン）有機的な建物をつくる工作
3. 平面の課題：コラージュお絵描き（自由課題の絵画といきものやのりものの写真を使ったコラージュ）
4. 立体の課題：ネームプレートづくり（粘土でつくるネームプレート）

を例に、子どもたちがどのように創作しどの講師がどのようなアドバイスを与えたことでどのような変化が生じたかを事例としてあげ、子どもたちへの適切なアドバイスのありかたを検証する。

ただし、子どもたちの積極性とオリジナリティ（創作力）が育まれることを前提とし、子どもたちに対するアドバイスは子どもたちの求めに応じることが原則とした。

## 1. 平面の課題・食べる

「食べる」をテーマにお絵描きをする。

描画材は鉛筆・クレヨン（36色）・水彩絵具（12色）を用意、基底材はスケッチブック。道具は筆洗・筆（太さ違いで3本）・筆の水気を吸う

\* (株)エンバイロ・デザイン 図工ランド 主任講師

ペーパータオル・パレット。

食べ物、ではなく人や動物が食べているシーン、食べるために料理をしているシーン、食物連鎖など様々なシチュエーション・行為を描けると望ましい。

参考に食べ物の写真を20種ほどと講師の参考作品を10種ほど用意。食べ物の写真はアイデアが出ない生徒へのきっかけづくりにもなり、見ながら描くことでリアリティが増すので絵に説得力がでる。講師の参考作品を真似して描くのもよいことにした。

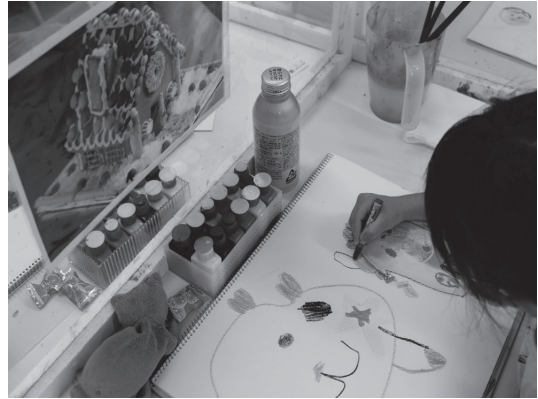
最初に課題のタイトル・趣旨説明・講師の参考作品の紹介・クレヨンで人の顔を描くときに細かい部分がぐちゃぐちゃにならない色塗りの順番・絵具とクレヨンのはじき絵の関係性を10分程度説明して各自制作に入る。

指導としては個人の実力に応じつつ、何か要素が足せそうならそれを提案してより密度のある仕上がりになるようにする。

#### 事例 1-1：お菓子の家の写真を参考に描く

事例1の子どもは、もともと意志が固いタイプなのであまり説明を聞かずにとにかく自分のやりたいことに突き進む。ここでは紙面右側に写真を参考にしたお菓子の家をクレヨンで描いている途中で急に絵具を使ったため、絵具が乾くまでクレヨンで描けなくなって待っているところを、筆者が「お隣たくさん描くところあるね」と声をかけると、クレヨンで雲の妖精を描いて完成とした。

お菓子の家は写真を参考にはしているが細部や大きな形をきれいに取ることは技術的にできないので、印象的なカラフルな部分と全体に茶色っぽい部分を自分のできる範囲で描いている。注意事項としては、ある程度描けてくると集中の切れ目と満足感で完成を主張してくるが、塗り残しがあれば端まで塗るように支援し、要素が足せそうならこういうのあったら素敵だね、とまだ描ける部分があればそれを提案。お菓子の家の写真から自分が考えられる世界を広げて細かく描き込むように促す。



事例 1-1 【制作の様子】



事例 1-1 【完成作品】

#### 事例 1-2：講師の作品を参考に描く

多くの子どもが講師の参考作品を見ながら制作をする。制作をするのは好きだが何を作ったらいいかわからないタイプは一定数いるので、講師の参考作品を10種前後毎回用意して、真似をしてもいいことにしている。写真や作品を見ながら真似をする行為は基本的に好きな子が多い。

事例2の子どもは、講師の参考作品を気に入って、真似をしながら描くことにした。絵を描くことや作品を作るのは好きだが具体的にあれをしたいこれをしたいという希望はあまりないタイプの子どもである。

まず下書きを鉛筆でして、その段階でせつからだからそっくりに描いてみようかと声かけをすることで目標の明確化を図る。描くのが難しいと相談

を受ける時は、一度別の用紙で練習させる。一度描いてみると描けることが多いので、「上手に描けている」とほめて、本番の紙にも同じように描いてみようと呼ぶ。自信をもって子どもたちは難なく下書きを終えクレヨンで線画、絵具で大きい範囲を塗る。

#### 講師の絵を見ながら描く子ども所感

見本にしていた講師の参考作品よりも動物たちが小さくなっているがひとつずつ丁寧に真似をして描いていた。背景色の黄色の塗り残しを最後に塗りつぶしてもらって完成。本人はかわいいと感じた作品とそっくりにお絵描きできたことで達成感を覚える子どもがほとんどである。



事例 1-2 【講師の絵を見ながら描く子ども】



事例 1-2 【完成作品】

#### 事例 1-3：お菓子の家の写真を参考に描く

事例 1-3 の子どもは、描きたいものが次々と浮かんで細かく描き込みができるタイプの子供。人を描くのに抵抗が無く、自分の考えた世界の登場人物を難なく描いていく。要素が多くベースの形が見えづらいお菓子の家の写真から三角屋根の形をしっかりと読み解き鉛筆でサラッと模写。上の方の空間が空いてしまったまま完成したと言うので、この空いているところにかわいいおやつや好きな果物を描いてみたら、と提案。

お菓子の家は絵の具で仕上げ、それ以外はクレヨンで細かく仕上げる。鉛筆の書き込みが繊細で丁寧なので、あまり迷うことなく進められていた。背景が白いまま完成と言うので絵の具で背景を塗るとクレヨンで塗るよりは楽し華やかになるからどうですかと提案。二つ返事で背景を塗って完成。



事例 1-3 【鉛筆で書き終えた】



事例 1-3 【完成作品】

## 2. 立体の課題

### 曲がった建物（空間のデザイン）有機的な建物をつくる工作

有機的な建物を各自自由に題材を選んで同じ材料を使って1時間程度で制作する。

ねらいとしては空間把握能力の伸長と普段日常でふれているはずの家具などを思い出して縮小して再現することで構造を把握する能力を育むこと。

基底材は正方形の段ボール。材料は紙バンドとコンビタイとクッションペーパー、内装用の画用紙・スポンジ・モール・スチレンペーパー・ケチャップカップ・赤と黒の油性ペン・クレヨン。セロテープとスチのりを接着剤として用意。紙バンドを構造に使い、面を出すための材料はクッションペーパーを用意。

正方形の段ボールを土地に見立てそこに建造していく。建物ならなんでもよく、魚の形をした水族館やアーチがきれいなレストランなど様々な建物ができる。

骨組みから作っていき、内装を細かく作りこむ。その後、要所要所にクッションペーパーで壁をつける。縦方向にばかり紙バンドをつけるとぼよよした柔らかく不安定な形になってしまい強度がないので、横方向にも構造を足して丈夫にしてあげるための指導がたびたび必要。紙バンドが交わる部分はセロテープのみだと強度が不安なのでコンビタイを使ってねじってまとめる。

講師の参考作品の紹介と進め方を説明して制作開始。

指導としては基本は本人の考えたものをしっかりと制作してもらおうが、作品を持ち帰る際に壊れてしまわないように強度を高める工夫を都度提案する。何か希望の形があるがうまくできない生徒がいたら助け舟を出す。内装を作っている途中で力尽きた生徒へ同じ形を一度にたくさん作る方法の伝授や家具の提案をする。

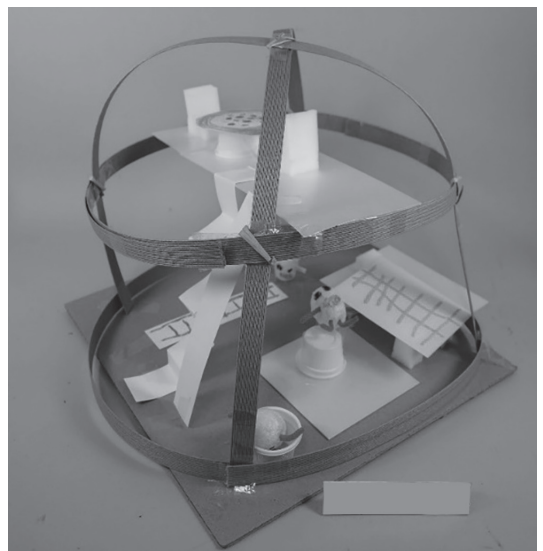
### 事例 2-1：説明通りの紙バンドの構造体

最初の進め方の説明で作った形を思い出しながら制作。縦方向に十字のみだと強度が無いので横向きにも紙バンドを入れるよう声かけ。作業スピードはゆっくりだが丁寧に仕上げている。

横方向の構造を足す段階で二階建てにすると決めたようで、二階部分の床としてスチレンペーパーを貼りダイニングテーブルとソファを作った。テーブルの天板は画用紙にクレヨンで着色。一階部分にも椅子やテーブルなどの家具を配置した。階段の横には滑り台もつけた。



事例 2-1 【紙バンド部分制作中】



事例 2-1 【完成作品】



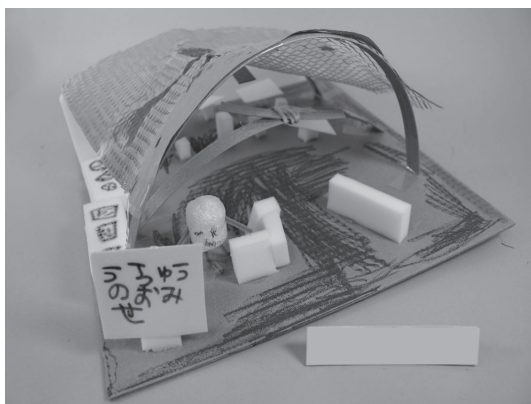
### 事例 2-2：参考作品をもとにオリジナリティーを發揮

一階建ての奥行きのあるレストランの参考作品を見て、ほぼ同じ形で制作。アイデア豊富でひとつひとつを楽しそうにつくるタイプの子ども。講師の話もよく聞いているので途中であまり困らない。

写真はスチのりを使うためにボトルをさかさまにしてのりを出口に移動させているところ。

とても内装に凝っていた。

キッチンや客席はスポンジを小さく切ったりして作り、黒い油性ペンでコンロやシンクを描き込み。床はクレヨンで着色。看板を立てたいと意気込み、最近本人がはまっている「うちゅう」のおみせにした。



事例 2-2 【完成作品】

### 事例 2-3：二階建て（兄弟のいる子ども）

二階建てに設定。前日に兄2人が受講していたので、家で既に完成作品を見ていた。下の兄がやっていたのを真似て横の支えにモールでスポンジ製の椅子をくくりつけているところ。

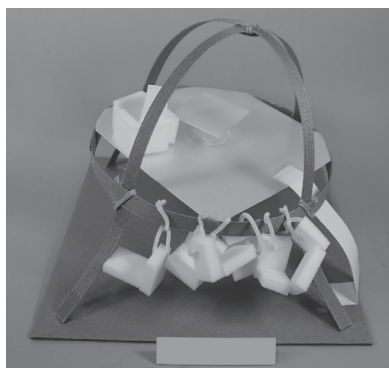
マイペースであまり特別にやりたいことがあるタイプではないが、やりたいことをなんとなくの形にはできる。うまくできなくなって困るとすぐ講師を呼ぶので、こういう風にしたらうまくいくよ、とアドバイスするとするっとできるので器用で技術力がある子ども。

この日はとにかく椅子をぶら下げることに集中していた。ちまちまと1つ椅子を作ってはモールでくくりつけることをしていたので建物の内装はほぼ手付かず。

しかしとても集中して取り組めていたので、本人は満足気だった。



事例 2-3 【スポンジ製の椅子をくくりつけている】



事例 2-3 【完成作品】

#### 事例 2-4：階段のある二階建て

二階建てにする予定で、蛇腹折りにした紙でできた階段の長さを確認中。

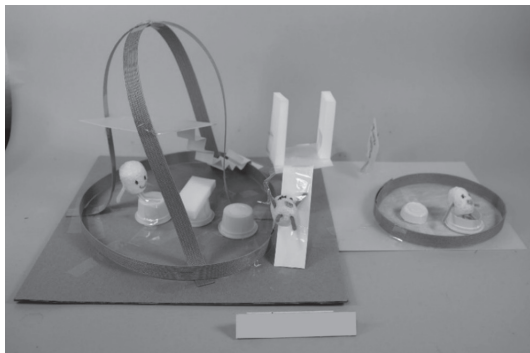
やりたいことがしっかりあるので淡々と完成に向けて作っていくタイプの子ども。一階部分の家具を少し設置した後小さめの床で二階を作ろうとしているところは一階が隠れて見えなくなるのを心配してのことだった。

強度を高めるための横向きの紙バンドは提案したが本人的には不要な要素だったようで却下、あまり高さもなかったので無理強いすることはしなかった。

建物だけではなく庭に滑り台、さらに土地を延長してプールまで制作。本人は納得の仕上がりだった様子。



事例 2-4 【階段の長さを確認中】



事例 2-4 【完成作品】

#### 事例 2-5：丁寧なこだわり派

ベンチを作っている様子で、最初はなんとなく紙バンドをダンボールに固定していたが、天井からブランコをぶら下げて遊べる建物に方向性が決まってから細部のつくりこみのスピードが上がる。

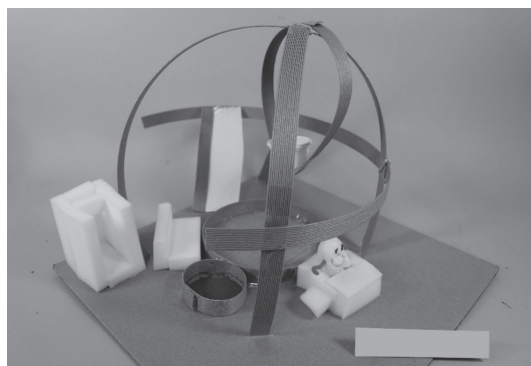
こだわり派なので作業はとても丁寧。

一階部分にはプールとお風呂があり、水色と青色で塗り分けてある。

天井から下りるブランコの座面はケチャップカップ。内装制作中にスポンジを貼り付けるのが楽しくなってしまう、建物を充実させるよりスポンジを組み立てる方に執心していた。



事例 2-5 【内装制作中】



事例 2-5 【完成作品】

### 立体の課題・曲がった建物（空間のデザイン） をおこなって

自分が作った建物がぐらついていても気にしない・気づかない子どもがほとんどだが、技術的な裏付けがないと強度が出ないことがわからないからそのままにしているだけで、「ここすごく不安定だから支えを入れていいか」と声をかけるとほぼ全員がうなづく。

紙バンド同士がセロテープのみの接着だと剥がれてきやすいのでコンビタイを用意しているのだが、年少の生徒ほどコンビタイをなんとなく折り曲げ巻き付けているだけで効果的ではない状態になっている。日常で触れたことがないから扱いがわかっていないだけで、中に針金が入っていてねじって閉めるとしっかり留められることがわかればどの子どももすぐにできるようになった。それでも物理的に力が弱い生徒は苦戦していたが、何度も繰り返すうちにコツをつかんでいった。

いずれの子どもも建物に方向性が決まってから細部のつくりこみのスピードが上がる。子どもと言えども適切なアドバイスと制作の方向性を自分で決めることが重要なことがわかった。

### 3. 平面の課題・コラージュお絵描き

#### コラージュお絵描き（自由課題の絵画といきものやのりものの写真を使ったコラージュ）

描画材は鉛筆・クレヨン（36色）・水彩絵具（12色）を用意、基底材はスケッチブック。道具は筆洗・筆（太さ違いで3本）・筆の水気を吸うペーパータオル・パレット。切り貼りするのでハサミとスティックのりを用意。

A3の紙に10個前後の写真やイラストを「のりもの」と「どうぶつ」にカテゴリ分けして2種用意。どちらか一方を選び、その中から1つ使いたい写真やイラストを決めてコラージュする。

絵を描くきっかけやヒントとするためのコラージュ。最初に構成をある程度決める必要はあるが、貼り付けた部分から世界を広げて描いていけ

ば良いので描き始められずフリーズしてしまうことがないようにすることが良い課題の条件。

普段は細かい部分が難しくて書けない車や自転車、走っている様子の動物などが切り貼りするだけで自分の絵にできるので普段は挑戦できない作風やテーマにも挑戦できる。

最初にどの写真・イラストを使うか決め、ざっくりと切り取る。糊付けする前にスケッチブックの上でどのようなレイアウトにするか決めて完成形をイメージできたら貼り付け。その後周りを鉛筆で下書きしてクレヨンや絵具で着色する。

実際には、講師の参考作品を用意し、進め方を順序立てて説明して制作に入る。

指導としては、アイデアがたくさん浮かぶ生徒は落書きではないので丁寧一枚を完成させるように、思い悩んでしまう生徒は、いくつかコラージュの写真やイラストに絡めて提案したり、一度コラージュであることを気にせず何か描きたいものがあるかを聞き取りして本人のぼんやりとした考えをまとめることを支援する。また絵具で色を塗るときに細い筆を選びがちなので塗る範囲に応じたサイズの筆を使うように都度声をかける。

コラージュが気に入った子どもはあまった紙を持ち帰りがるのでおうちでもやってみてねと持ち帰らせる。

#### 事例 3-1：自転車写真とコラージュ

下書きが丁寧なので迷いなくクレヨンでなぞっていった。

自転車を押している人間は少し複雑だったようだ。

このあと絵具で塗ることを前提に細かい部分はみ出したくない箇所を先にクレヨンでなぞっておく。クレヨンの油分で絵具がはじかれるので子どもたちはクレヨンバリアと呼んでいる。

使用した自転車の写真は白黒だったので、絵具で自転車のフレームを黄色に着色。自転車の横に立つ人間が難しかったようで苦戦していたが、描けるように描いてみよう、と声かけしたところ下



事例 3-1 【自転車の写真鉛筆の下書きをクレヨンでなぞっている】



事例 3-1 【完成作品】

半身は断念したが横向きの顔を描くことができた。

参考作品にはなかった花を付け足してかわいらしい仕上がりに誇らしげだった。同じ色を広く塗る部分は大きい筆を使おうね、と声かけし、ぐいぐい描き進めていたのが印象的だった。

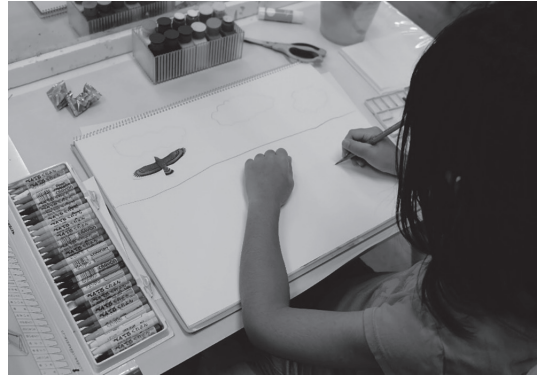
#### 事例 3-2-1：翼を広げた鳥の写真とコラージュ

翼を広げた鳥の写真を選んだ。鳥が飛んでいる空と街並みで分けて描くつもりと話して下書きを始めた。

下書きができてクレヨンで細かい部分を塗った後、細筆を使い絵の具で空を塗っている様子。

同じ色を広く塗る部分は大きい筆を使おうね、と声かけをして細い筆から太い筆へ変更し作業スピードの向上に成功。女の子の洋服などの細かい部分は細い筆で塗るように指導した。

アイデアに困らずいつも描きたいものがすぐ決まる子どもなので、あまりコラージュに気乗りがしなかった様子であった。ササッと描いて終わりにしたがっていた。あれこれと足したら素敵だ



事例 3-2-1 【鉛筆で下書きをしている様子】



事例 3-2-1 【絵の具で空を塗っている様子】



事例 3-2-1 【完成作品】

よと声かけするも頑なに拒否したので完成。この日は教室に到着した段階で気が乗らない様子だったので、いつもよりも省エネな仕上がりに。

#### 事例 3-2-2：翼を広げた鳥の写真とコラージュ

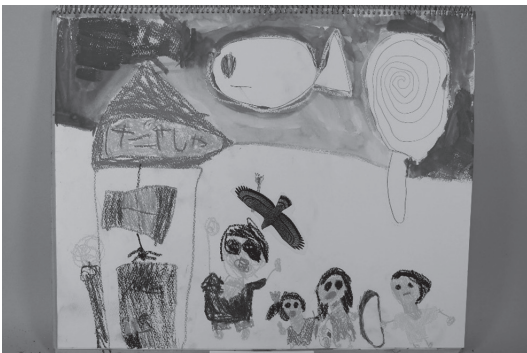
翼を広げた鳥の写真を選び、その周りに人間を描いている。

クレヨンで顔を描く順番を授業の最初に説明し





事例 3-2-2 【鳥の写真に人間を描き始めた】



事例 3-2-2 【完成作品】

たことを覚えていて、滲まずに描けている。

クレヨンだけで描く場合は肌色を先に塗りつぶし、その後目や口を描くときれいに仕上がる。教室内の掲示物に画材と描く順番の推奨順がわかるものがあり、それを眺めていた子どもである。

大好きな駄菓子屋さんと家族を描き、鳥を弓で射止めた自分を描いた。空には大きなキャンディ型の雲と魚型の雲が浮かんでいる。

平面で絵の課題の時は絵で表現して説明しようとして説明しているのに文字を書くことはあまり認めていないがひらがなが書けることがうれしいようで止める隙もなく駄菓子屋の看板を書き込んでいた。

しかし弓矢で鳥を射貫いたコラージュ作品を作った生徒は全会員 600 名程の中でほかにおらず、ひと際目を引く作品となった。

### 事例 3-2-3：チーターの写真とコラージュ

チーターの写真を選び、動物園にする予定で鉛筆で柵を下書きし始めた。

柵を描いた後、手が止まってしまったので、「動物園ならチーターだけではなくて他の動物も描いたら？」と提案したところ、普段の平面の課題や待ち時間の落書きでよく描いてくれるうさぎをはじめとした数種類の動物を増やした。最初はどこにどうやって描いたらいいのかわからないと言っていたが、「いろ柵を描いた後手が止まってしまったので、「動物園ならチーターだけではなくて他の動物も描いたら？」と提案したところ、普段の平面の課題や待ち時間の落書きでよく描いてくれるうさぎをはじめとした数種類の動物を増やした。最初はどこにどうやって描いたらいいのかわからないと言っていたが、「いろんなお部屋があるように描いたらうまくいさそうじゃない？」と声かけしたところひらめいた様子で、区切りを描きながら動物を増やしていた。図鑑などは使わずに思い出せる範囲で自分の好きなかわいい動物を描いていた。

勢い余って鉛筆で下書き状態の動物もいっしょくたに地面の緑色を塗ってしまい、どうしよう…と講師に相談してきたので、絵具で塗った部分を乾かして上からクレヨンで塗る方法で解決。

本人曰く、曇っている日なので空はクレヨンでグレーに塗ったが、動物たちと地面の緑色で力尽きていたので隙間がたくさんあることや端まで塗ろうという指導は無視であり丁寧には仕上げて



事例 3-2-3 【柵を下書きしている様子】



事例 3-2-3 【動物を増やしている様子】



事例 3-2-3 【完成作品】

くれなかった。

また、どうしても書きたい気分だったようで、一度相談されたので止めたが結局講師の目を盗んで猫を描いた上に「ニャー」と文字を書き込んだ。

#### 4. 立体の課題

##### ネームプレートづくり（粘土でつくるネームプレート）

基底材は『ひなたぼっこねんど』という自然乾燥で一定の硬度が出る粘土。材料は粘土に色を着けるための水彩絵の具（白以外の 11 色）・鉢底ネット・針金。道具は鉛筆・はさみ・スチのり・黒油性ペン・粘土板（クリアファイル）・つまようじ・ペーパータオルと水がはいったトレー。アイデアスケッチ用に A5 サイズの紙と持ち帰るときに崩れないように四角い紙皿を配った。

『ひなたぼっこねんど』は乾燥すると屋外での

使用にも耐えるので表札としても使えるが、今回は、室内でドアプレートとしての使用を想定。

ネームプレートの形はシンプルなもののがやりやすいので楕円や四角、複雑でないものを推奨。ネームプレートと説明はするが実際に作るものは名前はもちろん勉強中などの注意喚起のもの、好きな動物や植物なんでもよいことにした。

もともとの粘土の色は生成り色だが水彩絵具を混ぜ込んで着色ができる。しかし粘土自体がかなり硬めなので子どもの力では時間内に 2、3 色が限界。色の組み合わせや形の選択が仕上がりにつながる素材である。

イメージスケッチをしてデザインが決まり次第、骨の役割をする鉢底ネットをおおよその大きさ・形にはさみで切り、そこに表面のデザインを貼り付けながら作っていく。裏面は飾るときに見えないので混色はせずそのままの粘土を表面に対応する形で貼り付けて鉢底ネットを隠していく。

細かいパーツをスチのりで貼り付け、針金を通すための穴をつまようじで開ける。ドアなどにかけるように針金を通して完成である。

時間内には完全に乾ききらないので紙皿に載せて各自宅で乾燥をしてから使うこと。余った粘土は希望者は持ち帰り可能であることを伝える。講師の参考作品の紹介と上記の進め方を説明して制作開始。

指導としては、粘土に色を着ける際に、表面をコーティングするように絵具を撫でつけると粘土が乾いた後も耐水性や硬度が思ったように出ず、屋外での使用に耐えられなくなるのでなるべくしっかり練り込むように声かけ、力が弱い生徒で進みが悪ければ半分は講師が手伝うなど補助を積極的にする。理想が高くなりやすく時間内に終わらなくなりやすいので、どんどん進められるようにアイデアで悩んでいたり鉢底ネットの形にこだわってしまったり粘土の作業になかなかはいれない生徒にははとんとん声をかけてスムーズに作業ができるよう指導する。

**事例 4-1-1：ひなたぼっこねんどネームプレート**

雲のような形、表面を黄色い粘土で覆い、裏面を貼り付けている様子。

説明の理解度が少し低く出来上がりの形と中に仕込む鉢底ネットの形をまったく同じにしなくてはいけないと思っていて、ハサミで切るのに少々苦戦していた。

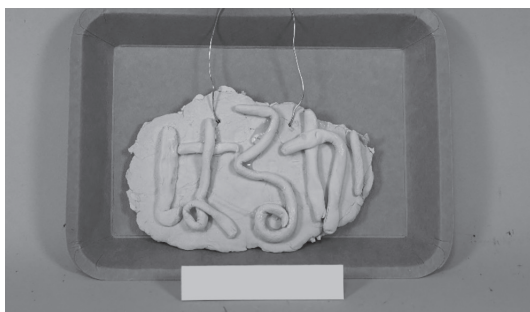
作業は丁寧で慌てずおこなうタイプなので少しずつ粘土をつけて表面の凹凸を均しながらきれいに作ろうと工夫していた。

色を混ぜるのが粘土の硬さのせいで大変で疲れてしまったようで、黄色を混色したきり文字は粘土そのままの色で作り貼ることに。

文字を作る上でかなり細くひも状にしないと望んだ仕上がりになりにくいのだが、黙々とひも状に細く粘土を伸ばし、ひらがな三文字を無事作り上げた。



事例 4-1-1 【裏面を貼り付けている】



事例 4-1-1 【完成作品】

**事例 4-1-2：ひなたぼっこねんどネームプレート**

四角い形、表面に水色に混色した粘土を貼り付けている様子。あまり使う必要がない場面だが粘土ベラを使いながら楽しそうに制作を進めていた。

小さくちぎり少しずつ貼り付けている。

水色の粘土で土台を作ってから二色目の混色をおこない、ピンクのウサギを飾りにつけた。文字は粘土ベラで彫りこむ方法を選び、何度か直しながら丁寧にひらがなを彫りこんでいた。

鉢底ネットをはさみで切っている様子。白いクレヨンで鉢底ネットに形の下書きを何度かして納得した形になるように慎重に進めていたが、少し硬かったようで両手ではさみを握り力を込めていた。



事例 4-1-2 【鉢底ネットに粘土を貼り付ける】



事例 4-1-2 【完成作品】



### 事例 4-1-3：ひなたぼっこねんどネームプレート

片面をピンクに混色した粘土で貼り終えて飾りに使う分の粘土を混色している様子。表面にばかり絵具をつけるので粘土ではなく手に赤い絵具がどんどんついている。粘土の中に絵具を練り込むようにこねるように声かけをした。

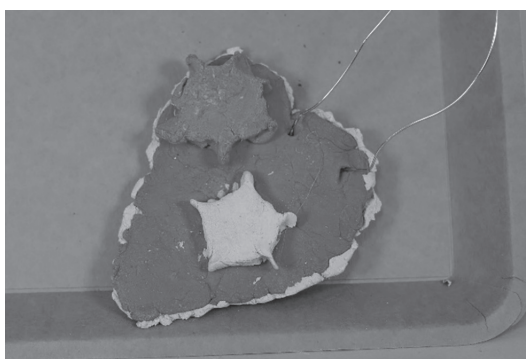
おおよそ混ざったので飾りを形作っている様子。イメージは決まっているようで星の形を熱心に作っていた。

本人こだわりのハートの形に星の飾りをつけた。裏面も色をつけたいという希望で裏面は黄色に混色した粘土を貼り付け。裏面の黄色と表面のピンクの粘土を混ぜて賢くオレンジ色の星を作っていた。普段のお絵描きで色の足し算をしたことをうまく活用できている。

楕円に切った鉢底ネットの芯に粘土を貼り付けている様子。土台は粘土そのままの色で文字をカラフルにする予定。粘土を小さくちぎり丁寧に均しながら貼り付けている。



事例 4-1-3 【星飾りを作る】



事例 4-1-3 【完成作品】



事例 4-1-3 【手に赤い絵の具】



事例 4-1-3 【鉢底ネットをハート形に切る】

### 事例 4-2：アルファベットのネームプレート

アイディアスケッチの紙を見ながらアルファベットを1つずつ粘土を細いひも状にして作っている様子。アイディアスケッチの紙に自分の名前を英語で書きたいから書いてと講師に相談してきたので記入。自分の部屋のドアにかけると教えてくれた。

最初はあまり粘土を細くできず太いひも状で大きなアルファベットを作っていたが、土台に載せてみよう、全部の文字がこの大きさと入りそうかなと声かけをしたところ、もっと小さく細くしないと難しいということに気が付きすぐに作り直していた。

土台の形と色をシンプルにして文字にこだわった。

青を混ぜた粘土と赤を混ぜた粘土のあまりを混ぜて紫色を作り、それを最後の1文字に使った。

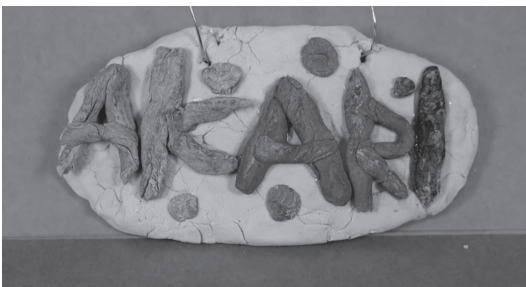




事例 4-2 【粘土をひも状にする】



事例 4-3 【粘土をひも状にする】



事例 4-2 【完成作品】



事例 4-3 【完成作品】

それでもまだほんの少し色付き粘土が余ったので飾りとして小さな丸を貼り付けて完成。

英語で自分の名前のプレートができたと本人はとても喜んでいた。

#### 事例 4-3：勉強中のネームプレート

土台に粘土が貼りおわり、文字用に作った黄色い粘土を細くひも状に伸ばしている様子。作りたいた文字数が多いのですごく細くするとうまくいくよと声かけ。まじめな性格なので一生懸命細く伸ばし丁寧に1文字ずつ作っていた。

本人に年の離れた妹がいたり、小学校入学への気持ちが高まっていたこともあったのか、講師の参考作品にもあった「勉強中」のプレートを作った。

ハートや星のマークが好きでお絵描きのときにもよく描いているのだが、今回も土台の形はハートにしていた。

漢字ではなく自分がわかるひらがなで文字を作ったので文字数がかかなり多く、また土台が小さ

めだったので少し文字作りに苦戦していたが、講師が何も言わずとも文字を2列にレイアウトして収めていたので自分で考えて完成させる力がある子どもである。

#### まとめ

以上に示したように、造形活動をおこなう子どもたちが「食べる」をテーマにしたお絵描き・有機的な建物をつくる工作・自由課題の絵画といきものやりのものの写真を使ったコラージュ・粘土でつくるネームプレートの4つの課題を通して、子どもたちがこれまでの経験や講師からのアドバイスを活かしながら今自分が実現したいアイデアを表現する制作に取り組んだ。

筆者は、子どもたちにどのようにアドバイスしてより感性が表現されたものをつくれるかに取り組む、子どもたち個々の才能に合わせたタイミングやアドバイスのあり方を追求している事例をこ

覧いただいた。

今回子どもたちがどのように創作しどの講師がどのようなアドバイスを与えたかをまとめてみると以下ようになる。

- ・アイデアは押し付けるのではなく子どもに任せることで、取り組みへの集中力を引き出す。
- ・子ども一人一人の特質を理解した上でのアドバイスのタイミングの大切さ。
- ・様々な段階で、チェックし評価することで、達成感が得られ、次への意欲がわく。
- ・クレヨンや絵の具のはじくことや使用する素材についての知識は確実に伝える。アイデアの素となる。
- ・使用する道具の特徴も的確に伝える。

これらを子どもたちの個々の状況に合わせて、使い分け積み上げていくことで、子どもたちの創造力の涵養がなされると考えられる。

## 提 言

平成 29 年 3 月 31 日改正「保育所保育指針」の p.13 の、「(2) 幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」によると、子どもの小学校就学時の具体的な姿として、保育士等が指導をおこなう際に考慮するものとして、創作に関連する事項と考えられる次のような事柄があげられている。

### ア 健康な心と体

保育所の生活の中で、充実感をもって自分のやりたいことに向かって心と体を十分に働かせ、見通しをもって行動し、自ら健康で安全な生活をつくり出すようになる。

### イ 自立心

身近な環境に主体的に関わり様々な活動を楽しむ中で、しなければならないことを自覚し、自分の力でおこなうために考えたり、工夫したりしながら、諦めずにやり遂げることで達成感を味わい、自信をもって行動するようになる。

### カ 思考力の芽生え

身近な事象に積極的に関わる中で、物の性質や仕組みなどを感じ取ったり、気付いたりし、考えたり、予想したり、工夫したりするなど、多様な関わりを楽しむようになる。また、友達の様々な考えに触れる中で、自分と異なる考えがあることに気付き、自ら判断したり、考え直したりするなど、新しい考えを生み出す喜びを味わいながら、自分の考えをよりよいものにするようになる。

### ク 数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚

遊びや生活の中で、数量や図形、標識や文字などに親しむ体験を重ねたり、標識や文字の役割に気付いたりし、自らの必要感に基づきこれらを活用し、興味や関心、感覚をもつようになる。

### ケ 言葉による伝え合い

保育士等や友達と心を通わせる中で、絵本や物語などに親しみながら、豊かな言葉や表現を身に付け、経験したことや考えたことなどを言葉で伝えたり、相手の話を注意して聞いたりし、言葉による伝え合いを楽しむようになる。

### コ 豊かな感性と表現

心を動かす出来事などに触れ感性を働かせる中で、様々な素材の特徴や表現の仕方などに気付き、感じたことや考えたことを自分で表現したり、友達同士で表現する過程を楽しんだりし、表現する喜びを味わい、意欲をもつようになる。

また、p.31-33 には、表現に関する具体的な記述がある。

### オ 表現

感じたことや考えたことを自分なりに表現することを通して、豊かな感性や表現する力を養い、創造性を豊かにする。

#### (ア) ねらい

- ① 身体の諸感覚の経験を豊かにし、様々な感覚を味わう。
- ② 感じたことや考えたことなどを自分なりに

表現しようとする。

- ③生活や遊びの様々な体験を通して、イメージや感性が豊かになる。

#### (イ) 内容

- ①水、砂、土、紙、粘土など様々な素材に触れて楽しむ。
- ②音楽、リズムやそれに合わせた体の動きを楽しむ。
- ③生活の中で様々な音、形、色、手触り、動き、味、香りなどに気付いたり、感じたりして楽しむ。
- ④歌を歌ったり、簡単な手遊びや全身を使う遊びを楽しんだりする。
- ⑤保育士等からの話や、生活や遊びの中での出来事を通して、イメージを豊かにする。
- ⑥生活や遊びの中で、興味のあることや経験したことなどを自分なりに表現する。

#### (ウ) 内容の取扱い

上記の取扱いに当たっては、次の事項に留意する必要がある。

- ①子どもの表現は、遊びや生活の様々な場面で表出されているものであることから、それらを積極的に受け止め、様々な表現の仕方や感性を豊かにする経験となるようにすること。
- ②子どもが試行錯誤しながら様々な表現を楽しむことや、自分の力でやり遂げる充実感などに気付くよう、温かく見守るとともに、適切に援助をおこなうようにすること。
- ③様々な感情の表現等を通じて、子どもが自分の感情や気持ちに気付くようになる時期であることに鑑み、受容的な関わりの中で自信をもって表現をすることや、諦めずに続けた後の達成感等を感じられるような経

験が蓄積されるようにすること。

- ④身近な自然や身の回りの事物に関わる中で、発見や心が動く経験が得られるよう、諸感覚を働かせることを楽しむ遊びや素材を用意するなど保育の環境を整えること。

以上であるが、ここでは直近の「(ウ) 内容の取扱いの事項」は筆者がおこなってきた子どもへの支援の中心にあるものと合致する。

この「保育所保育指針」と先に挙げた、子どもたちがどのように創作しどの講師がどのようなアドバイスを与えたかをまとめた以下の事項は、実践の具体的な事項であるが、「(ウ) 内容の取扱い」の事項と同様のものと判断できる。それぞれの○番号は「(ウ) 内容の取扱い」の事項と判断される場合につけた。

- ・アイデアは押し付けるのではなく子どもに任せることで、取り組みへの集中力を引き出す。①②
- ・子ども一人一人の特質を理解した上でのアドバイスのタイミングの大切さ。②
- ・様々な段階で、チェックし評価することで、達成感が得られ、次への意欲がわく。③④
- ・クレヨンは絵の具をはじくことや使用する素材についての知識は確実に伝える。アイデアの素となる。④
- ・使用する道具の特徴も的確に伝える。④

以上、この「(ウ) 内容の取扱い」の事項を念頭に、子どもたちの個々の状況に合わせて対応していくことで、子どもたちの創造力が涵養され、よりよい成長が期待できると考えられる。

#### [参考文献]

- 厚生労働省「保育所保育指針」平成29年3月31日改正 p.13
- 厚生労働省「保育所保育指針解説」平成30年2月 p.76